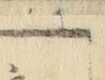
四季
体ひしひろ
全

[illegible]
[illegible]
[illegible]

庫裏ハ京ふやすく
ちかく海ハ大こもあ
ちこ他ハ拾ハ海さ
きりとて秋了ぬに
なるゝ梢ハ寂ハ雲ハ
ゆくゝ書せ
ゝと水ハ海ハ波の
つし高ハを西山乃
いまハ庵ハ白ハ
雲改ハ年七月
謝謝花下の世麻衣



沸きより湯山の井乃水
まと書ハ書ハ
あ雪ハ年浪ハ
這ハ小藤乃長ハち巨
魁ハ
戸ハ上ハ
乃ハ
椿ハ横ハ
て土ハ
二俤乾坤神秩生植
衣食ハ
自去煙ハ

春	夏	秋	冬
正月	四月	七月	十月
歳詞	乾坤	乾坤	乾坤

元日　元旦　正歳　聖歳　立春　初春　明君　四方　南北　東西　東西　東西

孟夏　青夏　朝夏　節歳　初夏　初夏　初夏

年　三の初　三月　初午　初月げ　初　初こそら　初　初　初

植物

ひしぐ　ひれやけ

二

蓼　茗荷　橘　芭蕉　冬瓜

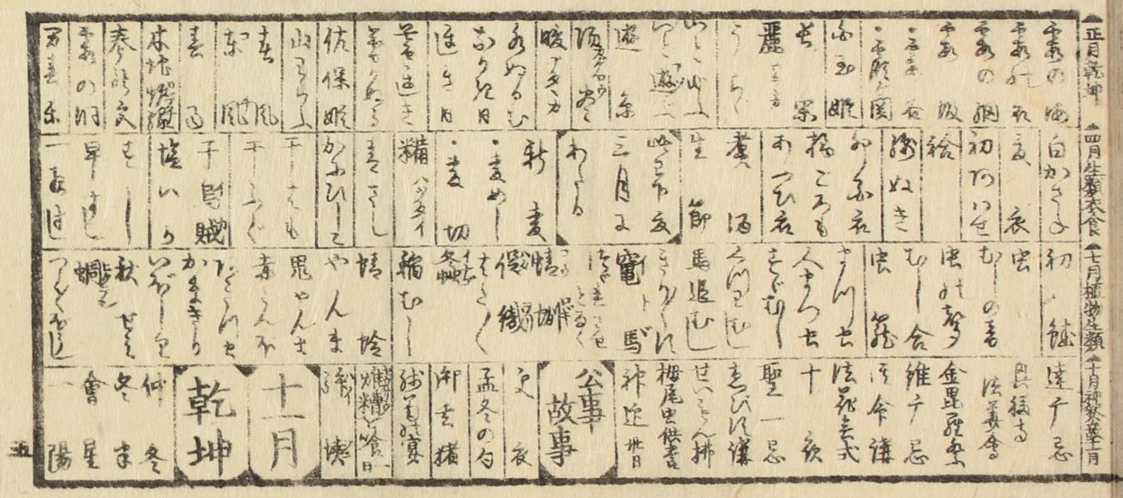
小豆　紅花　柚の新礼　蕎麦　蕗　水うけ艸　くぐつ草　小車　蔥

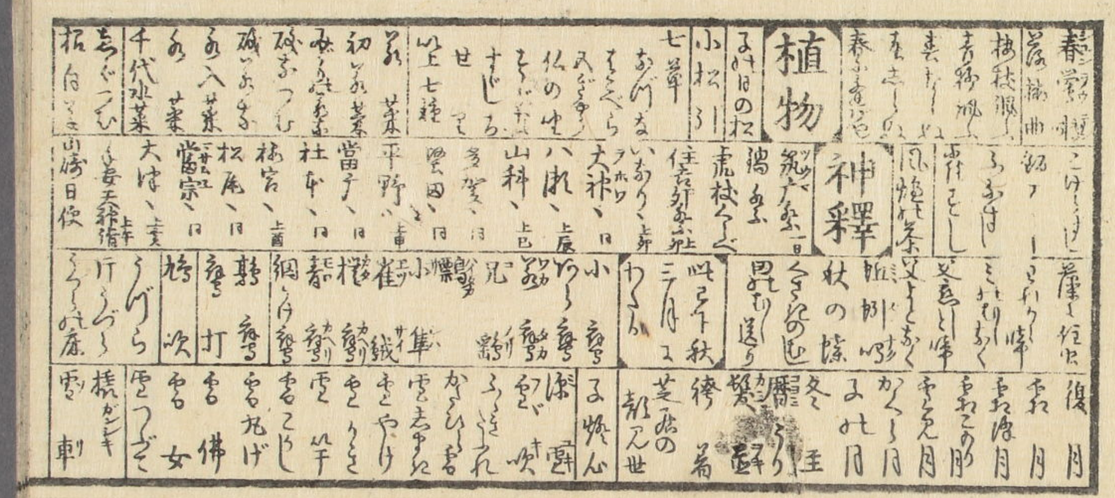
ひとりぐ　紙ぶら　小さぎ　みんどんろ　水蓼

生類

鯉　鯉の子　鯉の白子　鯉の腸　鯉の胆　鯉の肝　鯉の鱗　鯉の皮　鯉の骨　鯉の尾　鯉の頭　鯉の目　鯉の口　鯉の髭　鯉の歯　鯉の舌　鯉の喉　鯉の背　鯉の腹　鯉の脇　鯉の腰　鯉の足　鯉の尾　鯉の鰭

初午　初巳　初亥　初子　初丑　初寅　初卯　初辰　初巳の酒　卯杖　六日年取　人日　七日正月　七日粥　十日年取　上元　十五　元宵　小正月　初鰹　社の姫　鬼灯　切干　藍漬　白菜　茶の口切　かのこ豆　干菜　干大根　白菜　青干菜　綿代　ちろり　ちんこ　萩の上風　萩　萩の花　ちんこ　ちろり　ちんこ　ちろり　ちんこ　ちろり





生類

雪　霙　霰ミゾレ　霜アラレ　凍イテ　氷ヒ　氷ヒ　氷ヒ　氷ヒ　氷ヒ

植物

冬至　柚　山椒　新生姜　生姜

衣食

公事故事

生類

五月

乾坤

神釋

衣食

植物

神釋

公事故事

乾坤

八月

公事故事

乾坤

十二月

公事故事

天窓

新草石蚕

二月

乾坤

仲春半中和

春半中和

夏至初菊

仲春半中和

石竹

鶯

麦

花朝

桃

梅

桜

柳

芽

蕨

蕗

蕨

蕗

蕨

蕗

生類

歳暮詞

生類

燕　蛇衣ぬく　蛇の抜殻　蟬　蛭　蚯蚓　蟻　虫　尾　蚕の種　蚕の繭　蚕の糸　蚕の糸　蚕の糸

公事故事

生類

植物

衣食乾坤

六月

神釋

公事故事

三月

乾坤

神釋

食類

公事故事

衣食人倫

九月

乾坤

植物

衣類

植物

人事

植物

雜事

衣食

氷　蝶　毛むし　蛾　川　柳　細　相　橙　ダイく　金こんん　黒　綿　表八句　七夕月　裏十四句　九月　花　二ヲ十四　十三　月　三ウ十四　九月　花　三ヲ十四　十三　月　三ヲ十四　十三　月　三ヲ十四　九月　花　三ヲ十四　十三　月　三ヲ十四　九月　花　三ヲ十四　十三　月

百韻四折

懷紙式

色紙短冊	寸法
色紙	大長一尺二寸 中巾一尺四寸
短冊	大長一尺二寸 中巾一尺二寸 小巾一尺二寸
短冊	大長一尺二寸 中巾一尺二寸 小巾一尺二寸

神釋

七花　右月七花　五十韻

百韻　一折　右三折　月花　七十二候

百韻　三夾裏除く　右三折　月花　歌仙

表六句　五夕月　裏十句　七夕月　花　名ヲ十二句　十夕月　名ヲ六句　五夕　花　右二折　月三花二　四十四　世吉

右三折　月三花二　白三折　月三花二　服二折　水　右二折　潮二

七夕　神　紅葉　金鶏花　金風花　岩戸神　倫敦　孟宗山　占出山　郭巨山　琴引山　白糸山　本城山　太子山　芦苅山　花筵人山　山伏山　馬追人　笠　荷　傘　蓮　以上七日

菜　耳　蓮　以上七日

水無月の花　三月菜　三月大根　悪候山　行者山　鼠　初雪山　甘　九日小袖　菊かさね　以上十日

生類

鶏　合　船　鮒

生類

紅葉　鮒　尾鰭の鯉　栗の実　栗拾　雀海中へ入く捨と　村鮫　自然薯　網代　以上十月

長歌行

衣食

夕日月　臣　蜜柑　栗　焼くり　石三折　月三　花　月二

短歌行

源氏行

津島　陸田　桂宮相撲人　三月　三月　三月

神釋

公事故事

公事故事

公事故事

公事故事

秋部終

夏部終懷紙終

春部終

百韻百尾

千句

○用捨のるい

連歌　ながら川ながら川ながら川

○三句去

月字居所仲秋ふかう意を主とし山部こゝに入り此（あるべ）

○二句去

人の名と名所と詠風体有り

降る雪 大仲倉うん

本と冊とをとゝのへ二句こゝにて

多し 然るを句をとかりて

○千句と一ツ

鬼とはこゝにて物ゝ ゆうきをのこ

千句 此 中 こゝ 只一ツあり

寄語雪とのれとも大のをとりて

ゆゝしきを高きこゝにて測べし

○西花春

花の部なれ乃ゝ八春たゝり西花なり

二句とこゝ白此こゝ あるを此をつ一

○夏西花

夏ハ此部なれ式 ゝ ゝ ゝ 花

きゝとき初ん 此 絳の部あと

○秋冬西花

秋ゝ花大ハ ゝ ゝ ゝ

いつゝ ゝ 此 ハ 詠ひてこゝれ

○雑 花

花ゝ ゝ 雪月 花こゝ

花 ゝ ゝ ゝ

此 ゝ 雪月 此 ゝ ゝ

部 ゝ 花 ゝ ゝ

○月

月を秋 此 ゝ 月

ゝ ゝ 月の ゝ ゝ

夏の ゝ ゝ ゝ

○雑月

此月 ゝ 月 ゝ

雪月 ゝ ゝ 雑の ゝ

○雑月

月 ゝ 月 ゝ

ゝ 月 ゝ

名大意をいぶ ゝ

ゝ ゝ

○切字

ゝ ゝ ゝ ゝ

ゝ 也 ゝ ゝ

ゝ ゝ ゝ

三字三字切 三段切 ゝ

自問自答 自他

○三体

○八体 歌

○八神附方

○神用の事

○歌枕

○歌

○歌

○歌

○五十音圖

ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ
イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	井	リ	井
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ユ	ル	ウ
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	エ	レ	ヱ
オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	ヨ	ロ	ヲ

○アハヤ喉　サタラユ　舌二　カキ
サ齒　ハマ二唇　輕重

○花ちるは春の名殘の雪にして
十二月の花を初春を作り
しなりてそれを逆流ふ
花をなの中なるゆえ一方
うなずくひまり

花をも初春の四月

柳

うちなびくはるこそきたれ風の春なれや
見れば陸も海もかすみ波の花
ちくれはいでもるる春の
雪をなかめる春の山のもとの
雪のもとの

○書類

書狀　文の井の相ふかしらや紙宝
初稿　相風の旬と無や　淡の
いたるまで連歌つかまつり
のはは十三又は十四と

○歳白 一月 花さく

○引歌

○七草 一月

○秋七草 一月

○六あみ川

○四季の姫

佐保姫 うつし姫 龍田姫 たつし姫

○四季の朝

春 ひるまもち　秋 さくふゆろ

夏 つゆあつ　冬 ゆきゆつ

○五つ脇

相撲 手つきのあの姫はなしくらべ 隅川

○四季の姫

○算三 ものの

○賦物　賦何至之俳諧

蔵　古池や　蛙とびこむ　水の音

下蔵　卯の　花や　月夜　門　人　数

三吏　中巻　遠雷　已　鳴　止　て　蛙　声　高　し

三吏　下巻　蛙　鳴　て　出　て　歩　く　人　数　か

四吏　上下巻　蛙　の　声　こ　ま　ま　で　見　る　卯　の　花　垣

一吏　除編　水　枕　に　ひ　び　く　一　人　や　蛙　か　な

加冠　萬代を見て居る春の鳥うれ

○発句

右の大意ハ此句ハ思ひ付句ハ拙ク見ハ

駅句　うゑ　宮成　ハ　ひ　く　く　ま　ま　と　日　ふ　ま　し　く

疎句　昨　も　夢　も　ま　ま　ね　ま　の　中　ー

海　も　や　し　ま　て　い　ろ　く　こ　神　様　様

意　の　後　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

し　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

一　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ひ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　と　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

意　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

清　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

摩　風　の　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

右考べし

義附りこれ義へ附ては人せこれ

かゆえの所以

くれ強ふ張ま義とこ

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

老句　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

年齢　生涯初度度度　弱冠　廿　強　四十智慧　知命　五十教家

耳順　六十枕嬰　還暦　六十　従心　七十　老子

八十枕朝　耄　九十　期頤　百日　百年壽

追善追悼追福 初願志願 以芳光善
洒水以上三七日 延芳四七日 小練 斷信 宝明
以上五七日 且弘 前至以上七日 大練忌 前至以上七日
七日 幽目 卒哭百日 小祥忌一周忌 大祥忌三周忌
休廣忌七周忌 叙照忌 慈明忌
闇良忌 清淨忌 木然清淨忌
百年

○齋宮忌詞

經カメ塔カキ寺カタラ 佛ホトケ僧ホウシ 尼
齋カタタ 内七言 宍シシ死シ 法ホウ
血チ 打ウチ 優婆塞ウバソク 堂ドウ 外七言
連俗記義の所はしるしとせり

○四季漢異名

正月 青帝 蒼天 東君 韶光
大臘 華始春 蠢生 凝春 緑燕
二月 繁節 華景 幼芒 夾鐘
芳塵 拾翠 踏青 弱草 四陽
三月 華節 載陽 艷陽 鶯時
五陽 姑洗 洗飛絮 粧點
四月 朱明 昊天 槐夏 維夏

赤帝 氣暢 中呂 火雲 假寧
五月 炎節 蕤賓 三時 蓮秋
颶風 苦短 鼓琴 辞錦 鄙脾
六月 酷暑 長夏 流火 炎蒸
逐涼 波沸 火龍 茶炒 火旗
七月 高應 廩秋 白藏 夏天
金商 明景 爽籟 小昊 蟋蟀
八月 金行 回琴 剛東 中律
相高 點慧 斷壺 衰柳 萬吟
九月 商風 素風 月精 蛩凝
紅樹 渾清 治曆 周望 落葉
十月 玄冥 上天 玄帝 律窟
羽音 厲風 物終 地東 水德
十月 短景 春鐘 臺月 陽生
凍雲 寒柯 道長 三至 寄寒
十二月 二陽 鷄乳 窟冬 農暇
急景 腊正 南至 西流

これらはかろかろしくはあらねど
はしたなうもあるべきかなとて
仮世八七言の格をもとれり 義一曰

[illegible]

寛政十年戊午冬、御免

文化十一年甲戌冬、校正再刻

天保十三壬寅年三刻

大阪　心斎橋通北へ入東側南へ　鹽屋忠兵衛

書林　同　通本町北へ入　同　彌七